

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201202		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホームひかりの家 (つばきユニット)		
所在地	札幌市東区東雁来12条4丁目1-12		
自己評価作成日	令和2年2月28日	評価結果市町村受理日	令和2年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者様が個々に送ってきた生活を大事にするために生活歴や趣味など、細やかな情報収集を行いながら、楽しみのある生活を送ることができるよう、自己選択の視点を忘れずに個人に合わせた活動提供を行っている。
 ・施設内に併設している、ひかりの保育園や小規模多機能型居宅介護事業所ひかりのや同敷地内にある特別養護老人ホームと交流を積極的に行いながら、ご入居者様に楽しみや刺激のある生活を送っていただけるよう支援している。
 ・ユニット内の装飾や行事を工夫し、季節感を感じながら生活を送れるよう支援している。
 ・医療との連携(訪問診療や訪問看護)を密に取り、ご入居者様の小さな体調変化も見逃さずに安心した気持ちで生活を送れるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyouCd=0190201202-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年5月22日 (令和元年度分)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目の事業所は、小規模多機能事業所と保育園が併設されている。母体である特別養護老人施設が隣接され、非常時や研修、行事等で連携協力体制にある。併設の事業所とも地域住民として交流があり、園児と畑のイチゴを摘み、ジャム作りなどを行っている。運営推進会議は、小規模多機能事業所と合同で開催し、それぞれ現況報告を行う中で幅広い意見や情報交換があり、事業所への理解と地域交流の機会となっている。職員は利用者の意向に応えたいと、誕生日には「あなたの夢叶えます」を合い言葉に、クリスマスツリーのイルミネーション観賞、生寿司でお祝いをしている。また、ダンスが得意な女性利用者の意を汲んで、クリスマスにダンスパーティーを開催している。現在、コロナウイルスの影響で、家族との面会や外出が難しいが、利用者は、職員手製の桜が彩られた居間で、全国の桜の名所を動画で観賞し、ジーンズカン、ビール、カラオケを楽しんでいる様子が事業所便りに載っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念共有ができており実践に努めている。	事業所の根幹となる理念は、職員が基本に立ち戻れる存在になっており、ケアに反映できるよう努めている。職員は、入社時に理念の重要性を学んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設行事を通しての交流や町内会の行事、清掃等に参加している。	併設の小規模多機能事業所と保育園、隣接の母体施設とは、行事等で行き来がある。環境整備など町内会行事に参加、中学生の職場体験の受け入れ、母体主催の祭りは地域交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症カフェやお達者クラブを開催しており、GH職員も参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を実施し、取り組み状況の報告や地域情報の収集、ご家族から意見を伺いサービス向上に努めている。	小規模多機能事業所と合同で年6回の開催を計画し、地域、知見者、家族、包括支援センター職員の参加の下、定期的に行われている。現状報告後に、地域の案件を含めた意見交換や各立場での情報が得られている。少数ではあるが、参加者が増えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加いただき、協力いただいている。	行政とは主に管理者が担当窓口を訪れたり、電話等で意見や情報交換ができる関係にある。実地指導や集団指導、会議や研修会等で得られた助言や情報を運営やケアに反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居者様の安全確保の為、ユニット入口は施錠している。	身体拘束をしないケアの実践に向けた指針の整備、3ヶ月毎の適正化委員会や適宜内部研修や法人研修を開催し、共通理解を図っている。年1回、職員アンケートで得られた結果に対して、検討や指導が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や不適切ケアアンケート、身体拘束や虐待防止の研修など実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・理解している職員はいるが必要性については話し合うことができていない。 ・学ぶ機会を持つことができていない。 ・個々で研修に参加し、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書を用いて丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議にて質問に答える機会や意見をうかがう機会がある。 ・要望や苦情があった場合は適切に対応できるよう職員間で話し合い情報を共有しケアに反映している。	家族には、面会時や電話、運営推進会議参加時、年4回のユニット便りにて利用者の実情を伝えている。感謝の言葉も得られているが、意見や要望を受け止め、運営の向上に生かせるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年アンケートを実施し反映されている。	職員は各業務を担い、資質向上に努めている。指導的立場の職員は、業務やユニット会議、無記名アンケート、自己評価に沿った面談等で職員の意見や提案を収集し、業務改善など働きやすい環境整備に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課制度が整っている。 ・有給休暇をとれるよう推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修等に参加できる体制になっている。 ・研修参加の推奨をしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修等に参加できる体制になっている。 ・研修参加の推奨をしてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・都度傾聴し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時にはご本人やご家族から細かな情報をうかがい、ケアに反映させている。 ・面会時など状況を説明し、要望を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアプランに基づきケアを実践して、1か月後評価している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共同生活の場と考え、出来る事はしてきたとき、介助が必要な時は支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時に交流を図っている。 ・ご家族に協力を仰ぐこともある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人などの面会は快く受けている。 ・友人と外出をされる入居者様もいる。	家族や知人の来訪を歓迎し、年末に家族が泊まり利用者と一緒に正月を迎えるなど、繋がりを大切にしている。職員が家族宅に同行することもあるが、家族からも一時帰宅や法要、理髪店等の支援が得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・食席の配慮やレクリエーションの内容を配慮し心地よい交流が図れるようにしている。 ・職員が仲介して交流が図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去した入居者様の面会やご家族の相談事にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・DTのアセスメントシートを使用し入居時に情報収集し、ケアに活かしている。 ・都度傾聴し思いに添える様支援している。	入居時に得た利用者の背景を基本に、関わりから発したさり気ない言葉などを記録に残し、職員の共有としている。ダンスの得意な女性利用者の要望で、クリスマスにダンスパーティーを開催している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時の聞き取りやその後もご本人・家族に都度確認し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居時の聞き取りをし、その後もご本人の状況に合わせた支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が実施している。	ケアプラン作成時は、日々の関わりや、更新前に利用者や家族から生活への意向を聴き取っている。医療関係者の意見も参考に、計画作成者が行った評価や課題分析をもとに、会議で意見交換が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日個別記録を記入し、変化に気づいた事は申し送り時に都度検討している。 ・細かな事も申し送りし都度計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・多様化するニーズに対応できるよう日々検討している。 ・ご家族様のニーズも把握し対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・隣接する保育園の園児と交流の機会がある。 ・運営推進会議にて地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・急病の際はかかりつけ医に受診・訪問診療が月2回ある。 ・体調不良時は都度往診医に連絡し、指示を仰いでいる。	受診先は、家族や利用者が選択している。24時間対応の協力医による月2回の訪問診療に加え、従来からのかかりつけ医、専門医への受診は、家族と協力して支援している。週1回の訪問看護師による体調管理も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護が週1回ある。 ・体調不良時は看護師に報告、相談し、指示を仰いでいる。 ・報告書に毎回記載している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は細かな情報を提供している。 ・退院時は職員が退院カンファレンスに同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状態の変化がある時には、速やかに主治医に報告し、今後の対応方法ご家族に伝えている。 ・職員もICに同席させていただき、ご家族様の意向の確認や適宜緊急時の対応希望など確認している。	重度化した場合における(看取り)指針を整備し、入居時に説明して同意を得ている。体調悪化時は、利用者や家族の意向を踏まえ、介護・看護の計画書を作成し、関係者と連携を取りながら尊厳ある支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時対応のマニュアルがある。 ・スタッフルームに緊急時の対応方法の掲示がある。 ・心肺蘇生やAEDの研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域の町内会を招き消防訓練を実施している。 ・夜間を想定した避難訓練を実施している。	マニュアルを整備し、併設の事業所と合同で、消防署や設備業者の指導と町内関係者の見学の下、日中・夜間想定での避難訓練を実施している。隣接の母体施設を避難場所とし、災害時必需品は随時用意している。	自然災害の避難訓練を計画しているので、その実行に期待する。加えて、町内会関係者に非常時の役割を伝え、訓練への参加と連絡網記載への同意、家族へ避難場所の周知にも期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳の保持ができるよう言葉遣いには留意している。	入浴時は同性介助を徹底し、トイレ排泄時はさり気なく誘導するなど、尊厳ある接遇を基本としている。管理者や各リーダーは、場面毎に注意喚起を行っている。個別記録も適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日頃からご本人の希望や思いを表現できるような声掛けや関わりをしている。 ・自身で選択できるような関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員のペースになりがちなので留意している。 ・入居者様の意向やペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみには留意している。 ・外出時や行事に参加する時などおしゃれや化粧は希望に合わせて支援している。 ・ご自身で出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個人の嗜好に合わせたメニューの提供をしている。 ・入居者様と一緒に盛り付けや配膳、片付けをしている。	業者から調理済みの食事が配達されているが、行事食は、要望の多い生寿司などを職員が用意している。流しソーメンや生海苔かしわそば、芋餅などを、利用者の協力を得ながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分の摂取量を観察し、声かけで促したり、嗜好に合わせた提供や嚥下機能に合わせた形態に変えて提供している。 ・食事摂取量が少ない方には補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施している。 ・状況を確認しながら実施し、異常が見られた時には、すぐに歯科医に報告し往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・心地よい排泄が促せる様に記録などから一人ひとりアセスメントを行い支援している。	排泄チェック表をもとに、全員がトイレでの排泄を基本として支援している。ポータブルトイレの使用や衛生用品の活用は、利用者の状況に合わせて使い分け、失敗の軽減に効果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘し易い方にファイバー入りの飲み物の提供や、運動を促したり、腹部マッサージを実施している。 ・看護師や医師に相談し細かな下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴表を作成し週2回入浴出来る様支援している。 ・希望された時に対応している。 ・体調に合わせて声掛けしている。	毎日入浴できるが、午前と午後に週2回を目途に入浴支援を行っている。自力入浴やシャワー浴、足浴、清拭など柔軟に対応しながら、入浴剤や入浴後の飲料水を用意して、楽しめる雰囲気を出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や状況に応じて休息出来る様支援している。 ・心地よく眠れるように環境の整備や清潔の保持に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・居宅管理指導を受け適切な内服方法を指導受けている。 ・状況の変化に合わせて内服時の支援方法を変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・意な事、好きな事を把握し、役割や楽しみのある生活が出来の様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場のお散歩実施。 ・お花見の実施。 ・誕生日の個別対応を実施。 ・畑作業の実施。 ・ご家族や友人との外出がある。 ・難しい入居者様も居る。 	例年、畑の花や野菜の手入れ、散歩がてらの買い物や近くの公園で野鳥のさえずりを聞くなど、外気に触れている。近隣の緑地で桜見物や、誕生日には要望に沿って出かけ、また、家族からの外出支援も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理が難しく家族や職員が管理している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば都度対応している。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じられる設えや家庭的な雰囲気を感じられるような環境づくりを行っている。 ・アロマテラピーの実施。 	アロマ・テラピーを取り入れている共用空間には、利用者が摘んできた季節の花を飾り、四季に因んだ利用者との共同作品、行事での写真等を掲示している。利用者は、食卓やソファ、廊下にあるテーブルセットに座り、読書、テレビで動画、お喋りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・座席位置を工夫して心地よい交流が出来る様配慮している。 ・希望に合わせ、リビングや居室で過ごせる様対応している。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自宅から使い慣れた家具を持って来ていただき使用されている。 	契約時に、馴染みの物品持ち込みを勧めている。クローゼットが設置されている居室には、家具や仏壇などを動線に配慮して配置し、また、家族の写真を飾り、心地良い住環境を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいように表示を工夫している。 ・動線上に障害物が無いよう配慮している。 		